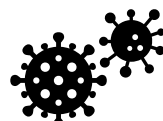


タイトル：実効性があるBCPを策定することで職員の対応能力向上につながった



感染症

ポイント

- 文字を減らし、動画等で理解できるBCPを作成。職員の理解が進み対応力が向上
- 日頃から同業者や地域住民と交流し情報交換することが重要

BCP策定のきっかけ

- 介護事業者の各種協議会で開いた研修で、東日本大震災で被災された宮城県の介護事業者の方から現場が混乱したことや収束後にどのような問題が発生したか聞いた。これを受け、災害に備える意識が高まり、事務所を移転することになった際にはハザードマップ上で安全な場所を確認して移転場所を決定したり、被災時に飲料や生活で使用するために必要な「水」を確保するために移転先の事業所に井戸をひく等防災に取り組んだ。また、その一環で簡易的なBCPも策定した。
- その後、コロナウイルス感染症が大流行し、施設内クラスターが頻発したことを受け、厚生労働省が介護事業者のBCP策定を2024年度から義務化した。これをきっかけに、本格的な感染症BCPの策定に向けて動き出した。
- 単純にBCPを策定するだけでなく、どこまで実効性を確保できるBCPを策定できるか『BCM』の目線で取り組みたいという想いは当初からあった。

BCP策定時の課題と解決方法

- 初めに作成したBCPは文字だけであり、職員に読んでもらえずなかなか浸透しなかった。そこで、公的機関が公表しているBCPに掲載されているイラストを参考に、イラストや写真を用いて『可視化できるBCP』を自社独自に作成。イラストの作成にあたり、様々な機関のBCPを知ることで防災の知識を深めることもできた。

策定した内容

- 代表者不在でもパニックにならないように、事前に決めることができる部分についてはルール化した。例えば、保健所と連絡を取る職員を『代表者がいなければ管理者、管理者がいなければ相談員、相談員がいなければその日の代表者』と決め窓口を一本化することを徹底。これにより、未然に現場の混乱を防ぐことができた。

- コロナウイルス罹患が発生した場合の対応方法の様々な動画が公開されているものの、自社に落とし込んで考えるとスムーズに理解することが難しかった。そこで、自社の介護施設で対応方法を撮影したオリジナル動画を10本以上作成。『一般的な対応動画や文字がたくさん書かれたマニュアルを読むよりも動画を見る方がわかりやすかった』と職員に評判で、職員の理解が進み対応力の向上につながった。また、コロナウイルス罹患者の対応というこれまでになかったことを行うということで職員に不安もあったが、払拭することができた。
- また、作成した動画をすぐに見ることができるようにQRコードを印刷した紙を事業所内の壁に貼り付けた。どこでもQRコードを読みとって確認しやすい環境にすることでより有効的に動画を活用することができた。動画だけでなく、職員用バイタル等のQRコードも作成し、応用して活用した。



動画QRコード等を印刷し壁に貼り付けた

BCP策定後の効果

- わかりやすいマニュアルを作成することにより職員の対応力が向上するとともに、職員の不安を取り除くこともできている。
- BCP策定後、保険代理店の勧めもあり「国からのお墨付きを受けましょう」ということで事業継続力強化計画を申請し、認定を受けた。
- 日頃から付き合いがある事業者と情報交換をすることも重要。

コロナ禍に自社の介護施設でクラスターが発生した際、他の介護施設からの「風評被害」で自社や地域に迷惑が掛かることを聞いていたので、敢えてSNSでクラスターが発生したことを公表。それと合わせて自社の対応方針や経過情報を挙げていくことで、風評被害を未然に防ぐことができ、非接触職員が物資補充の買い出しや検査キットの受け取り等外部の方と接触する業務にストレスなくまわることができた。

その結果、クラスターを約2週間と他の施設よりも2倍以上短い期間で収束することができた。短期間でクラスターを収束できたことで、

外部機関からは当事業所の取り組みが適切に行われているとの信頼感を持って頂けた。

- クラスターと台風が重なり、台風の影響で3日間電気が止まったことがあった。自社にも自家発電機があったが、燃料を入れても5時間しか持たなかったのも、電気が足りないことは明白であった。これもSNSで情報を発信し、それを見た方が発電機を貸し出してくれたり物資援助をしてくれたので、危機を乗り越えることができた。
- 事業者同士で補完しあえる関係性になり、災害時の対応における相乗効果が生まれた。
- 日頃からお互いにコミュニケーションをとって助け合っているものの、形として残るものがあっても良いかと思っているので、近隣の事業者と協力して「連携事業継続力強化計画」を策定することを検討している。
- 感染症対策のBCP、BCMはできている。現在、地震対応のBCPを作成中。熊本地震後に被災された事業者の方々にヒアリングしながら必要なマニュアル、BCPの作成に向け動いている。

その他のBCPに関連する取組

- 当事業所は海拔11mの地点にあり3階建てであるが周囲は全て低いので津波を想定した場合、指定避難場所までの到達時間や移動が必要な入所者の人数を考えると遠くへの移動よりは垂直避難が安全。必要な時に当事業所が避難所として利用頂けるよう、地域の住民にも共有している。
- コロナ感染者の対応をしている職員が寝泊まりできる仮設事務所やトイレ等を独自に準備。



コロナ時に一時的に建てた仮設事務所



仮設事務所の中
生活に必要な家具等も準備されている

【会社概要】

企業名：合同会社アズマ

所 在：宮崎県宮崎市佐土原町下田島11408-2

資本金：100万円

従業員数：60名

業 種：社会保険・社会福祉・介護事業

企業HP：－

活用施策

- ・ 事業継続力強化計画